

平成18年度 府立北桑田高等学校 学校経営計画 (計画段階)

学校経営方針(中期経営目標)		昨年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
1 学力の充実・向上	2 希望進路の実現 3 地域から信頼され、地域の誇りとなる生徒の育成	(1)学校経営 【成果】・土曜補習の実施(年間22回) ・部活動・生徒会活動の活性化(奉仕活動の実践その他) ・防災訓練、施設設備点検の実施 【課題】・進路補習の実施状況等の把握 ・生徒の基本的マナー指導 ・門扉の老朽化 ・舎監1名による寮の管理	1 学力充実向上 (1)研究授業・公開授業の実施 (2)シラバスに基づく計画的な学習指導 (3)自主的な学習習慣を確立する指導の工夫
		(2)学校教育 【成果】・生徒の怪我、病気、問題行動への組織的対応 ・管理職、教職員間相互の緊密な連携 ・普通科 類の教育課程の共通化 ・府立高校実力テストを教科指導等へ利用 【課題】 ・シラバスの充実 ・府立高実力テストのより有効な分析	2 希望進路の実現 (1)土曜補習の実施、活用 (2)進路補習の計画的な実施 (3)府立高校実力テストの活用
		(3)職員の管理・育成 【成果】・部長会による調整 ・本校の課題を地域の課題として理解してもらった ・研修、教職員評価による教員の意識改革 ・衛生委員会の定期開催(年6回) 【課題】・部長会の議論の活発化 ・地域の教育保障 ・生徒による授業評価 ・情報管理に関する校内マニュアル作成 ・教職員の健康管理、業務分担の適正化	3 地域から信頼され、地域の誇りとなる生徒の育成 (1)特に学区外からは明確な目的意識を持った生徒を入学させる。 (2)全教職員が共通理解・認識をもった学校運営の実施 (3)教職員の合意形成の工夫改善と、生徒と接する時間の確保 (4)特色ある教育課程や部活動の推進 (5)積極的な広報活動により、中学生及び地域の人々の本校教育活動への理解を一層深める。 4 教職員の健康管理 (1)勤務時間を適正にし、教職員と家族の心身の健康を保持する。

分掌	評価領域	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題
総務部	組織・運営	学校教育目標の具現化	前年度の課題を踏まえた目標を設定し、その達成に努める。 目標の具現化のため、全教職員が一致協力して取り組む。 内部評価・外部評価による点検・改善を行い、評価結果を公表する。		
		連携を重視した組織体制の確立	各分掌間の連絡・調整により、分掌相互の連携を重視した運営を行う。 部長会議・教科主任会議で検討・決定された内容を各分掌や各教科で具現化する。 分掌及び教科会議を充実させ、具体的な取組の進捗状況の点検、改善を行う。		
	家庭・地域との連携	家庭・地域社会との連携	家庭訪問等により、家庭と積極的に連携する。 地域社会・関係諸機関等の行事参加や開放講座等などの開催 各学期2回、学校便りを発行することなど、広報活動を積極的に推進する。		
	研修・研究活動	研修・研究による指導力向上	各学期に校内研修を行う。 研究授業や公開授業を実施する。 外部講師の活用を図る。		
総務部	人権教育	生徒の進路や生き方と関連させ、人権意識の高揚を図り、人権問題に対する正しい理解・認識の基礎を培う。	分掌や担任、家庭・地域・関係教育機関と連携し、人権上の問題の実態把握に努める。 教職員の人権教育の力量を高めるため、人権問題に関する教職員研修を充実させる。		
	P T A 等 渉 外 関 係	将来展望を見据えた着実な P T A 活動を目指し、適正な諸会議の運営を図る。	計画的で適切な文書作成と公文書の発送を行う。 「北高の未来を創る会」のより実質的な活動のための企画運営を図る。 新教育懇談会の適切な企画運営を図る。		
教務部	教育課程	特色ある教育課程の編成	学科・類・類型等に応じつつ、弾力的に運用できる特色ある教育課程を編成する。 適切な教育課程になっているか、常に点検する。		
	教科指導	シラバスにより科目ごとの計画を明確にし、生徒の学習習慣を確立させる。	シラバスを公開し、生徒に予習・復習の継続を促す。 授業アンケートを実施し、生徒の実態把握と、授業改善に努める。 公開授業週間を設定し、教員の研修とする。		
	広報活動	選ばれる学校を目指し、本校の特色を積極的にアピールする。	体験セミナーの改善と工夫を行う。 学校説明会でのプレゼンテーションの改善と工夫を行う。		
	図書館管理等	図書館利用の推進	図書委員会の活動の活発化を行う。 研修等の実施により教職員との連携を深める。 館内の備品の整備を行う。		

進路指導部	進路指導	生徒の目的意識を高め、明確にさせていくための計画的・系統的な指導の確立 主体的な進路選択能力の養成と学力の向上	各学年に応じた進路指導目標及び計画を充実させ、その具体化に努める。 進路学習及び進路説明会等の系統化とその内容の充実を図る。 土曜日・放課後・休業中等の計画的・継続的な進路補習を進める。 模擬試験、資格・検定試験等の受験を勧め、進路選択能力をつけさせる。 進路情報の収集・整理に努め、日常的な進路相談活動の充実を図る。			
生徒指導部	生活指導	基本的な生活習慣を身に付けさせる。	あいさつの励行、正しい言葉遣い、適切な服装や髪型の指導を充実する。 遅刻、怠学をなくす指導を推進する。 定期的な学校内外の巡回と全校集会等の全体指導を実施する。			
	部活動	部活動の活性化と人材育成	文武両道の適切な指導により加入率の一層の向上と大会等での好成績を目指す。 学校生活全般において部員としての自覚と誇りを持たせ、リーダーを育成する。			
	生徒会活動	生徒会行事の充実 ボランティア等への参加	既成の行事にとらわれない本校独自の取組の実践を試みる。 生徒会役員が先頭に立ち、参加者を募ってのボランティア活動等を実施する。			
	安全指導	4ない運動+1の継続指導 不審者等への対応強化 登下校時の安全確保	PTA等と協力して継続的に指導していく。 教職員の定期的な巡回と対応方法の指導を行う。 自転車点検等による事故防止の意識高揚と不審者対応方法等の徹底を図る。			
第一学年部	学習指導	学習の習慣と姿勢づくり	教科担当との連携により、落ち着いた授業の体制を整える。 土曜日を含め補習を充実させる。			
	生活指導	基本的な生活習慣の確立	けじめのついた生活態度の育成(遅刻をしない、挨拶をする等)指導の徹底 部活動等、自主活動の奨励			
	進路指導	三年間を見通した計画づくりと指導充実	三者面等による情報提供の充実 進路指導部との連携による意識高揚の取り組みの充実			
第二学年部	学習指導	学習の習慣と意欲の向上を図る	教科担当との連携により、落ち着いた授業の体制を整える。 土曜日の活用等内容を充実させ、家庭学習の習慣化に結びつける。			
	生活指導	行事等で中心的な役割を果たせるよう自覚を促す。	規律ある生活態度の育成(遅刻をしない、挨拶をする等)指導の徹底 部活動、行事等中心的な立場として活動できるよう自覚を持たせる。			
	進路指導	三年間の進路指導の二年目として進路への見通しを持たせる。	三者面談等により情報提供を充実。 進路指導部との連携による進路決定への指導の徹底。			
第三学年部	学習指導	授業を中心に課外活動とのバランスを考慮し家庭学習時間を確保させる。	自学自習の態度を養い、進路目標を実現する学力の養成を図る。 進路決定後も日常の学習を怠らぬように指導を進める。			
	生活指導	上級生としての自覚を持たせ、規律ある学校生活を送らせる。	自他を尊重し最高学年としての自覚を持たせ課外活動に取り組みさせる。 社会へ巣立つ直前であることを自覚した生活態度を育成する。			
	進路指導	自己の進路希望の実現に向けて主体的に取り組ませる。	個々の進路希望実現に向けて総合的な学習の時間を効果的に活用する。 二者面談・三者面談を必要に応じて実施し、三者の意思統一を図り指導を進める。			
保健部	健康安全管理	保健管理、健康教育を充実し、生涯に渡る健康づくりを目指す。	健康診断結果に基づく健康指導を充実させる。 各学年、各分掌との連携により生徒の課題を踏まえた保健学習を充実する。 保健指導会議や学校保健会議を充実させる。			
	学習環境整備	清掃美化に努め、良好な学習環境を確立する。	清掃器具の点検、補充と計画に基づく清掃活動の徹底に努める。 美化委員の活動を活発化し、良好な学習環境を確立する。 エコ活動への意識向上のため、ゴミの削減や分別、節電などに努める。			
農場部	農場管理	農場収入と圃場の計画的な運用	演習林雪害木の適正な処理と適正な圃場管理と安全教育の実施 農場部一丸となって農場収入を充実させる。 中国陝西省での植林交流事業の継続と成功に向け計画的に取り組む			
	専門学科教育	進路指導部との連携と、誇りの持てる専門教科指導	誇りの持てる進路指導と教科指導の実践 農業クラブ大会への積極的な取り組みと入賞を目指す 専門教科での実習の充実と安全教育の徹底			
寮務部	寮運営	愛情を基盤とした寮運営	定期的な食事内容の検討や施設設備の点検・改善等、寮環境の充実に努める。 寮生との対話や保護者との連携を大切にし、寮生に関する情報の共有化を図る。			

事務部	学校財政	機動的・積極的な財政運営に努め、学校経営に参画する。	特色ある学校づくりを推進するための優先的な予算措置を行う 電気、水道等の義務的経費の節減、執行の精査・精選に努める 預かり金や寮費等の適切な管理・執行に努める		
	施設設備管理	安全で快適な施設設備の充実を図る。	日常点検により施設設備の不良箇所を早期に発見し、早期に処置を行う 冷房運転を効率的に行い経費の増大を防ぐ バリアフリー化をより一層徹底し、快適な環境づくりに努める		
	文書・情報管理	個人情報保護の観点から、文書やデジタル情報の管理を徹底する。	情報保護のための環境を整える(机カギ、保管庫等) 公文書の整理、保管、廃棄を適切に行う		
国語	教科指導	国語に関する理解力、表現力を伸ばす。	小テスト、課題などを通して基礎学力の徹底を図る。 さまざまな文章に親しませ、視野を広げ、思考力を養う。 古典に親しむ態度を育てるとともに、文法の理解を深める。 論理的な構成を工夫して自分の考えを文章化する力を培う。		
社会	教科指導	計画的・効率的な指導	年間計画に基づき、計画的に指導を行う。 生徒の興味・関心を深める指導を工夫する。		
		生徒の学力の充実向上	生徒の理解を促すために補助教材等を活用・工夫する。 必要に応じて、小テスト、課題提出を実施し、学力の向上を図る。		
数学	教科指導	基礎・基本の徹底と学習習慣の確立を目指す。 応用力の伸張を図り、学力の向上を目指す。	生徒の学力及び意欲に対応した習熟度別講座編成を展開する。 小テストを定期的実施し、基礎の徹底を図る。 日常的に課題を提示し、家庭学習の習慣を身につけさせる。 発展問題の演習や補習を通じて応用力の伸張を図る。		
理科	教科指導	自然の事物・現象について理解を深め、科学的な自然観を育成する。	小テスト、レポート、課題等を通して学習内容の定着を図る。 実験・観察・実習を通じて、自然の事物・現象への理解を深める。 個々の生徒の理解度に応じて、補習などの手だてを行う。		
保健体育	教科指導	健康安全に留意した指導	運動の基盤となる十分な睡眠や朝食をとることなどの生活上の指導の充実 運動に適した服装や頭髪などの点検を含め、安全に留意した指導の徹底 器具の取り扱いなどについての指導の徹底。		
		主体的で意欲的な授業態度の育成	器具の準備や準備運動等をはじめ授業を主体的、意欲的に行うよう指導を工夫する。 種目の特性や技術を理解して積極的に実践する態度を育成する。 体調不良等でもできるだけ授業に参加させるよう配慮した指導の充実		
芸術	教科指導	指導と評価の一体化 生涯にわたって芸術を愛する心情を育てる。	授業計画と観点別評価の充実を目指す。 鑑賞教育の充実		
英語	教科指導	日々の学習の定着を図るため、授業と補習を充実させる。 コミュニケーション能力の向上を図る。	習熟の程度に応じた授業を充実させる。 小テスト等を習慣化するなど基礎的な学力の定着を図る。 土曜日や放課後等を活用した補習を充実する。 英語検定等の受検を奨励する。 AETと連携して個に応じた指導を充実する。		
家庭	教科指導	日々の授業を前向きに取り組ませる。	作品やレポート等、提出物の完全提出を目指す。 授業中のプリントやノートを提出させ、記入状況を点検する。 調理や衣服等の実習を通して興味関心を高める。		
		日々の授業を実生活に役立てる。	知識の習得に加えて、実生活の内容を取り入れた授業にする。 調理や衣服等の実習を通して日々の家庭生活で実践できる力をつける。 保育や介護等の校外実習を通して知識と技術の向上を図る。		
農業	教科指導	進路実現に役立つ職業教育の充実を図る	早い段階から進路意識を高め職業観を身につけさせる 地域の特色を生かした教材の積極的活用及び外部講師の活用 習熟の程度に応じた補習の実施と進路相談		
		技術を高め、知識の一体化を図る。	資格取得を奨励し、農業クラブ大会での上位入賞を目指す 先進地見学、中国での植林体験などを充実させ様々な活動のきっかけを作る 計画を立て、目標を達成する過程の経験の場を数多く設定する やりがい		

情報	教科指導	基本的な情報スキルの習得	講座の特性(情報A・情報C・情報処理)を生かした、実習の展開				
			習熟度に応じた指導(補講等)を行う。				
			キーボード操作の基本であるブラインドタッチの徹底(情報処理)				
		進路に結びつく情報活用能力を育成	各種競技会・コンクールへの参加・応募等の啓発及び指導の充実				
			各種資格取得の実施と啓発・指導の推進				
		インターネット等を利用した情報収集能力の育成					
次年度に向けた改善の方向性							